

『中学教科単語帳』(日本語↔タイ語)刊行記念

■■■ 座 談 会 ■■■

HANDS プロジェクト コーディネーター 船山 千恵

前任の矢部昭仁にかわりまして、9年間の下都賀地区での臨時採用教職員から心機一転、4月にHANDS プロジェクト コーディネーターとして着任しました船山千恵と申します。3年間外国人児童生徒教育拠点校に勤務したことや、若かりし頃のスペインでのホームステイの経験を生かし、このプロジェクトをお手伝いしながら、外国人児童生徒たちに愛を注げるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

着任し、最初の仕事であった、『中学教科単語帳』(日本語↔タイ語)刊行記念座談会について、報告いたします。

座談会 「刊行までの経緯と見えてきた課題」

《参加メンバー》

泉田 スジング(宇都宮大学非常勤タイ語講師)
松山 舞子(平成21年度国際学部国際社会学科卒業生)
田巻 松雄(国際学部教授)
松本 敏(教育学部教授)

(泉田) 栃木県のタイ人を取り巻く問題に30年前から携わってきましたが、90年代前半頃からタイ人の子どもに関する問題が増えてきました。そんな中、代表をしている「アジアの問題を考える会」に、山間部の中学校に入学したタイ人が日本語ができずに困っていて、宇都宮にある学習支援室「デッキ学習室」にも遠くて通えない、と相談がありました。それで、教科書の単語を翻訳した辞書があれば子どもに役立つのではないかと、思いました。また、日本に住むタイ人の子どもの未来を考えたとき、基礎の部分である義務教育で手を打つためにも、この単語帳をどうしても完成させたかったのです。そして、デッキ学習室を立ち上げた大畑美優紀さんとの出会い、たくさんの学生の協力と田巻先生のご理解により、刊行することができました。感謝するとともに、タイ人中学生

昨秋、ついに『中学教科単語帳』(日本語↔タイ語)を刊行いたしました。日本での勉強に困難を抱えているタイ人の子どもたちに役立つようにと、ご協力いただいた関係者の皆様はこの場をお借りして、お礼を申し上げます。なかでも、宇都宮大学非常勤タイ語講師・泉田スジング先生とデッキ学習室の学生の方々、松山舞子さんには、多大なるご尽力をいただきました。今回、スジング先生と松山舞子さんをお招きして、刊行記念座談会を、2011年4月10日、多文化公共圏センターミーティングルームにて開催いたしましたのでご報告いたします。

若林 秀樹(国際学部特任准教授)
佐藤 和之(真岡市立真岡西小学校教諭 日本語教室担当)
坂本 文子(大学院国際学研究所博士後期課程)…司会
船山 千恵(HANDS プロジェクト コーディネーター)…記録

や彼らを指導している先生方がこの単語帳を大いに活用してくれることを願います。

(松山) デッキ学習室でタイ人の子どもたちへの指導中、難解な単語が多く、説明をすればするほど、彼らには疑問が浮かぶという経験から、日タイ・タイ日の学習用語辞典の必要性を認識していました。刊行に協力することになり、各教科の教科書から単語や用語のピックアップを担当しましたが、その過程で、中学校で学習する単語には難しい単語が多いことを再認識させられ、思いの外時間のかかる作業でした。たくさんの子どもの学習の一助になることを希望いたします。

(坂本) 教科書の選定は、どのように行いましたか？

(松山) 本学図書館にあった検定済みの教科書を利用しましたが、作業にあたる者の共通理解として、地理以外は、最低でも各教科3

社は見よう、と。

(泉田) もっと教科書の数を増やした方がよかったですのでしょうか? 地域によって使う教科書に極端な差があるのでしょうか、逆にお聞きしたいと思います。

(松本) 社会・理科・数学は、教える順番は違っても、どの教科書でも重要な単語はさほど違いはないので、3社という数が少ないとはいえないだろうから、あまり心配しなくても良いのではないのでしょうか。

(松山) 参考にした教科書は平成16年度や17年度のものが多かったのですが、古くなかったか、心配です。

(松本) 学習指導要領が新しくなり、小学校では今年度から、中学校では来年度から、教科書もかわるが、内容に大きな変化は見受けられないので、心配ないでしょう。

(松山) 単語だけでなく、教科書によく出てくる用語・表現も選び、少し載せてみましたが。

(若林) 非常に役立つのではないのでしょうか。今年度は、この単語帳のスペイン語版の刊行を目指していますが、頻出用語や重要表現をもっと増やし、教科ごとの検索ではなく、全教科の50音順に並べ替えてはどうでしょうか?

(泉田) そうすると、辞書に近くなり、辞書ならすでに出版されています。用語辞典は、他の団体が作成していますし。中学教科の学習に役立つよう、学習しやすい「単語だけ」のニーズに応えたかったので、単語帳にしたのです。

(坂本) タイ語に訳す際、苦労した点は?

(泉田) 1つの単語だけでも、1時間以上かかったこともあったが、どうしても訳せないものもありました。

(若林) 単語帳があっても勉強しない子どもたちに関して、考えていることはありますか?

(泉田) この単語帳を一人でも多くのタイの子どもたちに使ってもらいたいから、単語帳の宣伝をし、広めるべきです。広めた単語帳の数が増えれば増えるほど、実際に活用する子どもたちが増えるのではないのでしょうか。

(田巻) 相当の冊数を用意しなければならないし、発送の方法も一考が必要になってきますが、広く広報活動することが望ましいので、早急に検討に入ることになります。

(佐藤) 日本語指導者の立場で思いましたが、母語

の単語に、指導者も読めるよう、ふりがなをつけていただきたい。

(田巻) 今後予定の他言語版「単語帳」では、ふりがなを振る方向で進めていきたいと思います。

(坂本) 最後に何か付け加えることはありませんか?

(泉田) 今後 HANDS プロジェクトで取り上げてもらいたテーマがあります。

タイ本国にいるタイの子どもは、例えば、宇都宮大学への進学を希望する場合、留学生制度を利用することができます。日本にいるタイ人の子どもは、日本語の能力は彼らよりはるかにあっても、日本の高校を卒業したため留学生制度を利用できません。そうかといって、他の日本人たちと肩を並べて受験するには、困難が多すぎます。こういった在日の外国人の子どもたちに大学の門戸を開けるような仕組みを考えていただきたい。

座談会冒頭の自己紹介で、佐藤和之先生より、「本校に90人在籍していた外国籍の児童が、震災や隣県である福島での原発問題の影響で、すでに14人が帰国しました(4月10日現在)。今後も在籍数は減ると予想されます」とお話がありました。入国も帰国も常に親や家族の決定による外国人の子どもたち。日本に残る外国人とその子どもたち、今回母国での生活に変える帰国者とその子どもたち、そのどちらの子どもたちにも健やかな成長と、どこで生活しても、日本で受けた教育が彼らの基礎の一部となることを願ってやみません。その教育の一助となるこの『中学教科単語帳』(日本語⇔タイ語)の刊行、出席者全員が喜びにあふれたの言うまでもありません。スジダ先生はじめ、携わっていただいた多くの皆様、お疲れ様でした。

今年度は、『中学教科単語帳(日本語⇔タイ語)』に続くべく、日本語⇔スペイン語版の刊行を予定しております。どうぞご期待ください。(船山)



座談会にて、泉田スジダ先生(左)と松山舞子さん